

# 本来の楽しみ方

松江市立八雲中学校 2年 上野 菜緒



私たちが普段よく耳にするSNS。それはインターネットが普及した現代、私たちの生活の一部となり、当たり前のもので扱われています。

SNSを仕事にする人や活用する人、情報源や一つの連絡手段として楽しむ人も多くいます。SNSは正しい使い方さえすれば、私たちにとってとても便利なものなのです。

しかし、一方で問題視されていることもあります。それはSNS上での「誹謗中傷」です。誹謗中傷とは、根拠のない悪口を言いふらして他人を傷つけることです。最近ではこの誹謗中傷のニュースが多く、それによって傷ついている人がいます。誹謗中傷を無くし傷ついたり、命を落とす人を減らすためにはどうすればよいのでしょうか。また、私たちには何ができるのでしょうか。

まず、SNSとはソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称です。つまり社会的なモノや情報、価値のキャッチボールを行う個人や組織のつながりをインターネット上に築くサービスだということになります。これがSNSの定義です。しかし、私たちは普段「SNS」と略しているものを多く目にしたり、聞いたりしています。私もこのことを調べるまでは「SNS」という文字に対してあまり深く考えたりしたことはありませんでした。だからこそSNSの使い方が曖昧になっているのかもしれませんが。改めて、意味を理解した上で利用するという事は重要だと感じました。

SNSの定義を踏まえた上で考えてみると、少しSNS本来の楽しみ方が分かってきます。使い方が様々であると共にその分様々な楽しみ方があります。

ただ、忘れてはいけないのが「つながりを築く」という部分です。私は「つながり」という言葉はとても温かい言葉だと思っています。遠くの人と話ができたり、外国にも情報を発信できたりとインターネット上だからこそそのつながりもあります。また、そのつながりがあることで心が落ち着いたり、笑顔になる人も中にはいると思います。SNSの中での「つながりを築く」というのは、物理的な距離を気にせずいろいろな人とつながることができるという一つの長所があります。だからこそ多くの人々が利用したくなるのかもしれませんが。

しかし、この長所が悪影響をもたらしているのが今、問題になっている「誹謗中傷」です。多くの人々が利用するSNSでは、ある一人の人が発した言葉などがすぐに拡散されたり、それに賛同する人や反対する人たちが炎上を起こしたりしてしまいます。その中でも誹謗中傷は、一人の人間に対して大勢の人間がその人を否定する文字を投げつけるのです。そうなってしまったとき、誹謗

中傷をしている人たちはすでにその時点でSNSの本来の楽しみ方を間違えています。誹謗中傷をしている側の人たちにとって、それが「楽しい」とか「快感だ」と感じているからです。

この「誹謗中傷」の特徴は、自分を否定してくる人の顔が見えないということです。また、その人たちの名前も年齢も性別も住所も分かりません。自分のことを何も知らない人たちに根拠のないことを言われたり、書かれたりしてしまうのです。それは被害にあった人にとって、理不尽なことであり、心に大きな傷を与えてしまうと私は思いました。

さらに、被害者は「有名人」だというケースが多いかもしれませんが、実際は「一般」の人も被害を受けています。この場合、誹謗中傷をしている側も相手の顔が分からないこともあると私は思いました。ただ「周りがやっているから自分も」という考えで誹謗中傷している人や、冷やかしのために遊び半分でやっている人たちがいると考えれば、改めて誹謗中傷という一つの行動がどれだけ必要のない行動かということが分かります。

人はそれぞれ生活している環境や性格、体形、顔、人間関係などが違います。それによって考え方も人それぞれです。ある人のある行動や発言を大半の人が賛同しても、人数が多ければ必ずそれが気に入らない人はいるのです。だからこそ誹謗中傷は起こります。

でも、たとえ自分が違うと思ったことを顔も名前も伏せて、一方的に否定していいとは私は思いません。相手が誰にしろ相手を傷つけているのに変わりはないと思います。その自分の行動が正しいのかよく考えた上で意見を発する、相手がどうなるのか考えることが、誹謗中傷をなくす第一歩だと思います。

SNSを使うことで楽しみがある一方、苦しみもあります。私たちは改めてSNS本来の使い方・意味を理解し、人に流されない力を持つことが大事です。一人でも多くの命を救うために自分ができることを考え、私たちはSNSと共存していかなければいけません。